

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第148回 それは何であれ、自分自身の「刺激剤」を持とう！

2006.5.7

今回は、連休の一時を、紫煙をゆらしながら、どうでもいい雑談である。

小生、意外とテレビが好きな「人」であり、よくテレビを見ている。といっても、番組表通りには見ることができず、DVDレコーダーに撮り溜め、週末にそれこそ「朝までDVD」、それでも日曜朝7時には朝食をとっているという、変なおじさんである。

見ている番組は決まっている。洋画、サスペンスものはほとんど、クラシック番組と芸術劇場、世界遺産等ドキュメントもの。スポーツは格闘技と野球以外大嫌い、特にゴルフなんぞは、映像としても動きが乏しく見たことがないし興味もない。あたかも、「NHK御用達」のような、やっぱり変わったおじさんである。

そんな中で、できるだけ見たいと思っている番組が、NHKの『プロフェッショナル』テレビ東京の『ガイアの夜明け』、TBS『情熱大陸』の3本である。

いずれも「人物」をテーマとしたドキュメンタリー番組、活躍するフィールドはマチマチだが、なるほどすごい「人達」がいるものである。これはもう、小生にとって他人事ではなく、何とかしなければ...、こんな人に比べ、小生は今まで、何をやっていたのか！...、見終わった感想たるや、いつも決まってそうなる。そして必ず、ベッドから抜け出し、いそいそとコンピュータに向い出す。まさに小生にとっての「刺激剤」「カンフル剤」そのものである。

登場する人物全てが、「人」と同じことをやっていない。一握りの天性の才能を認めるが、その多くは「努力」の結果である。決して逃げない、向って行く強固な意志、何事もやり過ぎさない反省・学習能力、自らの理念・思想に妥協しない精神力、そして「人」との共生、協調を目指すコミュニケーション力、これら番組に登場する人物ほとんどに、共通した資質とっていいだろう。

辛いと思うから辛い、できないと思うから逃げたくなる、価値観を見出せないから集中しない、責任感がないからいい加減になる、忙しいと思うからやり過ぎてしまう。

昨日も、おとといも、どこかで、そんな行動をとってしまったかもしれない。辛い人は私以上に沢山いる。こんなの「辛い」の内に入らない！ やってもいないのに本当にできないのか？「できる」努力をしていない...これら番組に登場する人物は、毎日を真剣に生き、「人」の数倍の努力を、見えないところで実践しているのであろう。結果、恐らく、悔いのない一生を過ごすことができるかもしれない。

テレビゆえ、100%真実とは言い切れない部分もある。でも自身の「刺激剤」として位置付けながら見ている純朴な視聴者がいて、これはもう、プロデューサー冥利に尽きるというものだ。そのうちの一人が小生であること、告白した。